

## 幕末明治の写真師列伝 第九十八回 宮下欽 その二十

一方、第一部隊の中の山村口攻撃隊その他は9月18日早朝に出発して、途中で第一部隊の中野山村口攻撃部隊と、第四隊の大岩村攻撃部隊が合流して、敵に一斉攻撃を行い、大損害を敵に与えて敗走させた。この第一部隊は敵を追撃して赤留村に向かって進撃する。

角川日本地名大事典編纂委員会編『角川日本地名大事典』（角川書店、昭和56年）によれば、「高田宿は、若松及び越後国から下野国に通じる重要な駅宿で、若松に次ぐ賑わいを呈していた。坂下村（現会津坂下町）から大内村（現下郷町）を経て栃木県下野国に続く下野裏街道の宿駅で、若松から金山谷に至る金山郷街道も交差する交通の要衝である。町並は南北に長く連なり、南から北に上町・中町・下町と続いていた。」

高田村の会津軍は佐川官兵衛を主将とする部隊で、これに水戸藩脱走兵や不正規兵を合わせた一千名を超える部隊であった。高田村への進撃路は、道が新と旧の2街道あり、新道は松代藩五番狙撃隊と徴兵1小隊が進み、旧道は松代藩一番、二番小隊と大砲1門に長州藩1小隊が進撃する。旧道はさらに間道が分かれていたため、松代藩二番小隊だけがこの間道を進んだ。間道を進んでいた松代藩二番小隊は、八木沢村の方向へ進んだところ、敵影を発見する。そこで斥候を出して偵察したところ、敵の斥候部隊も八木沢村にすることが判り、直ちにこの敵を銃撃で攻撃して、敗走させた。これらの部隊も赤留村まで進んで入る。逆瀬川よりの第二部隊も、雀林村より進んで第一部隊と合流して進撃する。赤留村ではすでに敵は敗走した後であった。そこで全軍、そのまま高田村に向かってそのまま進軍する。

一方、会津藩は会津城防衛のために高田駅を拠点としていたため、ここに多数の藩兵を集結させて、高田駅の土堤に砲壘を築き、この付近の松林の中に散って、征討軍に対して激しく砲撃をしかけてきた。これに対して松代藩部隊も大砲で反撃し、松代藩一番小隊と長州藩1小隊が松林の敵を掃討するためにあたった。この突撃に敵兵散を乱して敗走したため、これを追撃してそのまま高田駅に繰り込み、占領する。松代藩五番狙撃隊と大砲隊は、高田駅の郊外において壘を築いて大砲により頑強に抵抗する敵を排除して、敵の壘を乗っ取り、高田駅へ向かって進撃する。松代藩一番小隊、第二小隊と大砲隊が高田駅に突入して、それに続いて松代藩五番狙撃隊と大砲隊も突入する。さらにこれに続いて中信州の諸隊も続々と高田駅に突入してゆく。これに対して敵は高田駅でわずかに抵抗しただけで敗走していく。この攻撃により会津城の外の敵は壊滅的打撃を受けて若松平野から完全に掃討されたことになった。この戦いの間、9月10日、松代藩大砲隊の司令金児忠兵衛は、メリケンライフル砲など3門と四斤半施錠砲1門に兵を率いて若松城下へ入っていった。

9月12日、若松城の東南隅にあたる小田山の山上に砲台を築造して、薩摩、肥前、松代、大村の各藩の大砲で砲列を敷き、小田山の山上からの距離約1000メートルの鶴ヶ城に向けて砲撃を開始した。砲列を敷いた各藩の大砲は当時の最新式、外国製のもので、各藩自慢の大砲で威力のあるものであった。このうち特に肥前藩のアームストロング砲は射程距離も長く、破壊力も相当なものであった。



損傷した会津若松城（降伏後に撮影）

小田山の山上の各藩の大砲の概要は、

松代藩 メリケンライフル砲 2門

四斤半施錠砲 1門

ナポレオン砲 1門

肥前藩 アームストロング砲 1門

薩摩藩 四斤半施錠砲 1門

大邑藩 四斤半砲 1門

であった。

小田山の山上の他にも、攻城の砲壘陣地は次の6つの地点にあった。

諏訪町 長州藩 2門

仲町口 越前藩 2門

甲賀町 薩摩藩 4門

六日町 薩摩藩 3門

三日町 薩摩藩 4門

大町口 土佐藩 4門

9月13日夜半頃、突如、会津軍が城の東に出現して、激しい銃撃戦となったが、これを発見した大砲隊が小田山の山上より砲撃してこれを撃退することができた。鶴ヶ城内に向けての総砲撃は、9月13日と決められていたが、朝からの雨のため順延となった。それが突然の会津藩兵の城内からの出撃により砲撃をすることになり、これがそのまま総砲撃に移行した。松代藩の大砲は、他藩の大砲と共に鶴ヶ城の天守櫓、本丸、三の丸に対して砲撃し、これにより鶴ヶ城内は大いに混乱している状況が望見された。この総砲撃により鶴ヶ城の屋根瓦は飛び、壁、柱は碎けて火災を起こしたといわれる。特に鶴ヶ城の天守櫓は砲弾によって蜂の巣のように無数に穴が開いた。

9月14日午後に入って、白河口、越後口、平潟口の征討軍は、鶴ヶ城の城際まで近接して、これで鶴ヶ城の包囲が完了する。9月15日、小田山に砲列を敷いていた松代藩大砲隊は、甲賀町の薩摩藩大砲隊の応援のために直ちに移動した。そして城大手口の甲賀町に松代藩大砲と薩摩藩大砲は砲列を敷き、鶴ヶ城内および城周辺の敵に対して連日連夜の砲撃を行った。この砲撃は会津藩全面降伏の20日夜まで続いたといわれる。

（森重和雄）